

氏 名 楠 真帆
学位の種類 博士 (医学)
学位記番号 甲第517号
学位授与年月日 平成31年3月22日
審査委員 主査 教授 吉山 裕規
副査 教授 和田 孝一郎
副査 教授 熊倉 俊一

論文審査の結果の要旨

胃炎や胃がん等の原因である *Helicobacter pylori* の除菌療法は、胃酸分泌を抑制して菌を増殖期に誘導しつつ、複数の抗菌剤を作用させることで効果を発揮する。しかし、高齢者では若年者に比べてもとの酸分泌能が低下しており、酸分泌抑制剤の選択が重要になる。そこで酸による活性化を受けて初めて作用する従来の酸分泌抑制剤(PPI)と、カリウムイオンの取り込みを競合的に阻害して強力かつ持続的な酸分泌抑制作用を有する vonoprazan について、除菌治療における有効性と年齢の影響について、後ろ向き解析を行い、比較・検討した。

2013年1月から2017年4月に出雲市立総合医療センターで一次除菌療法を行った1172例と、二次除菌療法を行った157例を対象とした。除菌成功率は一次除菌が86.9%、二次除菌が91.1%であった。一次除菌で vonoprazan を使用した場合の除菌率は92.5%であり、PPIを使用した場合の除菌率83.5%よりも優れていた($p < 0.001$)。また、多変量解析においても vonoprazan の使用は除菌成功における有意な因子であった(オッズ比2.36, 95%信頼区間1.55-3.56)。年齢別では vonoprazan のPPIを上回る有効性は39歳以下で顕著であり、40代や50代でも認められたが、60代、70代では有意差がなく、両者の除菌率の差は年齢が上がるにつれて縮小した。性別や内視鏡的胃粘膜萎縮度は、vonoprazan の有効性に影響しなかった。一方、二次除菌においては、vonoprazan がPPIを上回り有効であるとは言えなかった。

これより、酸分泌が高齢者よりも高い39歳以下や40代、50代の一次除菌においては、従来のPPIよりも vonoprazan の使用により除菌成功率が高まるが、60代、70代では両者に差が無いことが示された。本研究の成果は、*H. pylori* 除菌治療における酸分泌抑制剤の選択に有用な知見を与えるものであり、学位授与に値する。